

館列陳品商濱爾哈
トツレフンバ

毛羊の邦聯蘇
(編下)

月五年六和昭
號十六百一第

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5

始



露滿蒙通信刊行會規定

- 一、本會は歐露、西比利亞及滿蒙の財政、經濟、金融その他一般事情を調査通信するを目的とします
- 一、本會は左の刊行物を發行します
 - (イ)露亞 時報—露滿蒙地方の財政經濟その他一般事情の記事があります(月刊雜誌)
 - (ロ)パンフレット—同上記事を三〇頁乃至百頁に一纏めにしたる單行書であります(月二回)
- 一、本會は哈爾濱商品陳列館内に設けてあります
- 一、會員は一ヶ年拾貳圓の會費を前納しまして前記諸刊行物を受納するのであります

北滿洲哈爾濱道裡斜紋街商品陳列館内

露滿蒙通信刊行會

哈爾濱商品陳列館

パンフレット第百六十號

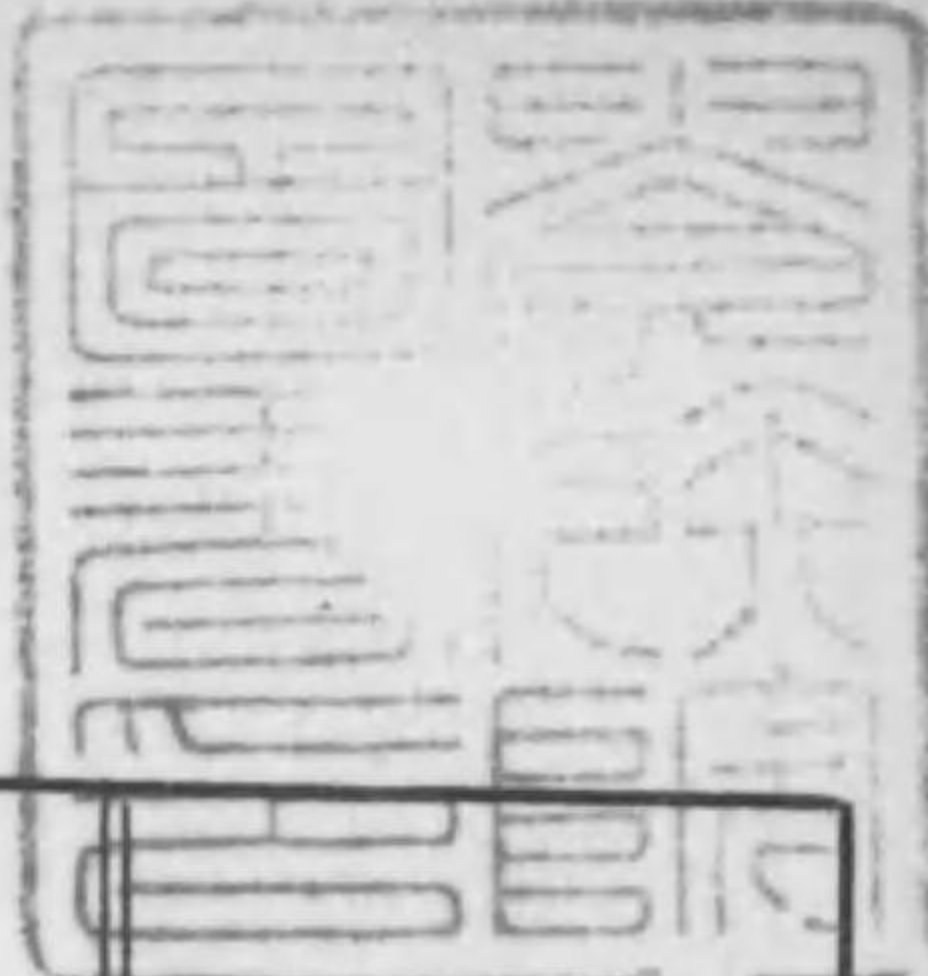
蘇聯邦の羊毛 【下編】

本編はヲロンツオフ、ウエリヤミノフ氏著「原料品としての羊毛」の中蘇聯邦に關する分の摘譯なり、數字少しく古き感あるも誇張の言なく、以つて羊毛界の狀態を窺ひ得べく館員秋野中一をして翻譯せしめたり。

昭和六年五月二十八日

館長 川 角 忠 雄

露光量違いの為重複撮影



露滿蒙通信刊行會規定

- 一、本會は歐羅、西比利亞及滿蒙の財政、經濟、金融その他一般事情を調査通信すると目的とします
- 一、本會は左の刊行物を發行します
 - (イ) 露亞 時報—露滿蒙地方の財政經濟その他一般事情の記事があります(月刊雜誌)
 - (ロ) パンフレット—同上記事を三〇頁乃至百頁に一冊めにしたる單行書であります(月刊二冊)
- 一、本會は哈爾濱國品陳列館内に設けてあります
- 一、會員は一ヶ年掛取金の會費を納納しまして前記刊行物を受納するのであります

北滿洲哈爾濱國品陳列館内

露滿蒙通信刊行會

哈爾濱商品陳列館

パンフレット第百六十號

蘇聯邦の羊毛 【下編】

本編はワロンツオフ、ウエリヤミーノフ氏著「原料品としての獸毛」の中蘇聯邦に關する分の摘譯なり、數字少しく古き感あるも誇張の言なく、以つて羊毛界の状態を窺ひ得べく館員秋野中一をして翻譯せしめたり。

昭和六年五月二十八日

館長 川角 忠 雄



蘇聯の羊毛(下編)

目次

第七章	國營羊毛買付機關(羊毛株式會社).....	一
第八章	農業組合の羊毛買付使命.....	三二
第九章	個人商人の羊毛買付.....	四〇
第十章	結論.....	五一

.....目次了.....



蘇聯の羊毛

（下編）

（以下は目次の内容が繰り返されているように見えます）



蘇聯の羊毛 (下編)

第七章 國營羊毛買付機關(羊毛株式會社)

工業のトラスト化盛に行はれたる時代に、羊毛工業トラストに原料を供給する中央機關が新に設立された、其一として一九二二年三月最高國民經濟會議幹事部の決議に依つて、全蘇羊毛合資會社が設立され、其後其活動範圍を全聯邦に擴張して羊毛株式會社と改稱し、從來中央纖維局に屬して居た羊毛買付機關、地方全權機關、受入設備倉庫等總て引繼がれた。

同會社の資本金は最初一千萬留で、其後七百五十萬留に減資され、又々九百萬留に増資されたが、其株主は最高國民經濟會議、諸羊毛工業トラスト及び諸地方産業機關である。

一九二二年以來同會社は、最も重要な羊毛原料供給機關として、最初は國內にて、次で蒙古西部支那、アフガニスタン、波斯等にも買付に従事した、同社の業務及其組織形式は産業上の新方法樹立の點から見て劃期的のものであつて、困難なる時代にありて好くその使命を完ふする

事が出来た。

現在では重要國營羊毛工業に對して粗毛全部、大部分半粗毛及細毛一部の供給を一手に引受けて居る(細毛に付ては國內産不足にして大部分は西歐より輸入して居る)、會社と國營羊毛工業との間の羊毛の引渡は契約に依つて行はれ、其契約數量は羊毛加工トラストの生産能力を基として定められるものである。

同會社が如斯特種の地位を占め得たるは一朝一夕の事實でない、羊毛買付業務は利益が多い爲め、諸種の産業機關が之に従事せん事を希望し、其間連絡なき状態が相當期間に涉つた、新經濟政策施行時期より、蘇聯邦の羊毛市場に於ける、同會社の勢力は時と共に増加し、業務及組織共に其當を得たる爲め、羊毛相場をも左右し得る程度に達した。

一九二二年には未だ同會社の基礎強固ならざりし爲め、大活躍をする事が出来なかつた、即ち春毛苴取期には地方出張所を設ける迄に達して居なかつたし、資本金も集まつて居なかつた、従つて同期中同會社は中央纖維局より引繼がれたる前年度の羊毛を、羊毛トラストに引渡すに没頭して居た、此事業は可成困難を伴つた、如何となれば大部分は無償引繼を受けたが、一部は有償

であつたし、トラスト方面では之だけでは不足なりし爲め、會社は其補充として買付を爲す必要あつた爲資金難に陥つたからである、加之株主たる羊毛加工トラストは毛織物現品を以つて株金として出資したる爲め、之を現金に換へて買付地に送金するに多大の努力と時間を要した、此期會を利用して諸國營機關は羊毛を所持する機關を誘惑して、羊毛に對しては現金拂をなすと稱して買付けを敢行し、舊苴取羊毛の集收を妨害するの舉に出でた。

如斯妨害に會つたけれ共羊毛株式會社は舊毛一萬三千一百屯、新毛六千五百屯を買付くる事を得た。

一九二三年の買付シーズンには、既に相當額の運轉資金を準備して業務を開始したけれ共、尙花々しく市場を獨占するには多大の不足を感じた、諸トラストは所屬工場への羊毛供給不足を憂慮せる結果、一羊毛株式會社より供給を受くると同時に、他の買付機關に注文を發し、又自ら買付に従事する向もあつた、無協定にて買付に従ふ結果は遂に市場にて投機的賣買を生じ、價格の騰貴を招き、市場の不統一を來した、従つて羊毛買付に籍口して實際は其智識なき幾多の機關を生じ、投資の途を求むる有様であつた、左に買付初期たる三月と最盛期たる九月との平均價格を

示す。(単位は一布度、金額は留哥なり)

種別	三月	九月
未洗滌オルダ種	二、三二	七、〇六
露西亞羊毛	三、二五	一〇、七〇
ブハラ川種	三、五二	八、八八
駱駝毛	三、八〇	一四、九六
未洗滌ツーシンカ種	九、五〇	二一、二三
チガイ種	一二、五〇	三〇、〇〇
メリノス種	一三、七六	五七、四二

同シーズン中の最低の価格を見るに、其差は一層大にして、オルダ種に付て云へは最低二留二十哥、最高七留五十六哥、露西亞種は三留二十五哥と十二留八十五哥、メリノス種は十留十二哥と六十留の如き之である。

左に同一九二三年買付數量表を示す。(単位キログラム)

地方別	買付手段	粗毛			半粗毛			細毛			計
		自	他	計	自	他	計	自	他	計	
アストラハン	自	一七五、三四八						二、九六五			一七八、三二三
	他										一七八、三二三
	計	一七五、三四八						二、九六五			一七八、三二三
ザカフカス	自	一七五、三四八						二、九六五			一七八、三二三
	他										一七八、三二三
	計	一七五、三四八						二、九六五			一七八、三二三
クリミヤ	自	四六、〇一一						一、七八六			一〇七、四八六
	他										一〇七、四八六
	計	四六、〇一一						一、七八六			一〇七、四八六
ウクライナ	自	九〇、二〇五						九、五六〇			一〇、五六一
	他										一〇、五六一
	計	九〇、二〇五						九、五六〇			一〇、五六一
ウラル、サラトフ	自	四二四、六六八						二、四五七			四二七、一二五
	他										四二七、一二五
	計	四二四、六六八						二、四五七			四二七、一二五

キルギス	自	力	1						
	他	力	二、九九四、八八六	1	1	1	1	1	1
計			二、九九四、八八六						

トルケスタン	自	力	一、三八一、六八六	1	1	1	1	1	1
	他	力	一、五八〇、九八一	1	1	1	1	1	1
計			二、九六二、六六七						

本國東南地方	自	力	四八三、七一八	1	1	1	1	1	1
	他	力	1	1	1	1	1	1	1
計			四八三、七一八						

總計	自	力	二、七四四、〇六〇	1	1	1	1	1	1
	他	力	四、六六六、〇七二	1	1	1	1	1	1
計			七、四一〇、一三三二						

他機關の競争激しかりし爲め、羊毛株式会社は計畫所定数の羊毛を買付くる事を得ず、相當の數量が他機關の手に占められた、全シーズンを通じて同會社に對し賣却方の申出又は苜取の申出ありたる數量は、九千二百五十三屯で、之を申出別にするに左表の如くである。(單位屯)

申告機關	數量	計に對する%
牧羊業者	五、一四〇	五五、五
國營諸機關	二、二九四	二四、八
個人取扱人	一、七〇四	一八、四
農村組合	一一五	一、三

此總計九千二百五十三屯中實際會社が買付けたる數量は、五千八百九十七屯で六三%八に當る市場で投機行爲の行はれた程度は、地方別に購入し得たる分量を見ると好く分る、其順位を%で示すと左の如くである。

ウラル地方	九七%〇	スターリングラード地方	六四%七
トルケスタン地方	七一、二	サラトフ地方	四七、四
東南地方	七一、〇	ザカフカス地方	二八、〇

本シーズンの特長としては屢々羊毛の受入を拒絶したる事で、又其原因も色々ある、約二千八百三十四屯即ち購入不能に陥りたる分の八四%八は價格高かりし爲、品質劣等の爲めが六%六、

賣約不確實及引渡期が長かりし爲めが六%一、其他の理由に依るもの二%五である、同一九二三年は羊毛株式会社、國營及組合營のものど競争する必要があつたから非常に困難なりし事は先に述べた、今は既に此種購入機關は購入市場から其影を没したが、當時に在つては合計實に七十
余を算した。

一九二三年に於ける羊毛株式会社の大成功とすべきは、購入地方に支店を設け各地に購入地點網を張り、又地方機關と連絡を採つた事である、例へばキルギス地方、トルケスタン地方中央亞細亞等にありては、各國營商業部に資金を供給して買付けたるが如き之で、又單獨にて或は聯邦機關を通じて本邦諸國の市場に進出した。

一九二三年買付シーズンには、合計五百二十八万六千六百六十九キログラム買付けられたが、其中四百七十二万四千三百五十四キログラムは所屬機關にて買付け、五十五万六千三百十五キログラムは他機關を通じて受入れたもので、其品別は左の通りである。(單位キログラム)

地方別	租	毛	半租	毛	細	毛	計
アストラハン	八三、〇七九	—	—	—	—	—	一四七
							八三、二二六

ザカフカズ	二六九、三五三	—	—	—	—	—	一、九三三	二七二、二八六
キルギス	八二三、一一一	—	—	—	—	—	—	八二三、一一一
クリミヤ	五一、三〇二	—	—	—	—	—	六、一九二	一一六、八三一
トルケスタン	一、八八七、二〇五	—	—	—	—	—	一四、二三五	一、九〇一、四四〇
ウラル、サラトフ	四三〇、五三二	—	—	—	—	—	三三三	四三〇、五六五
スターリングラード	九八、六五七	—	—	—	—	—	一九七	九九、五六五
北 高 架 斯	二九六、一八四	—	—	—	—	—	三一、八四三	一八九、三二〇
内部市場出	三、九三九、四二三	—	—	—	—	—	一〇一、三六〇	二二二、〇五七
東部市場出	五三七、二四八	—	—	—	—	—	四九〇、五八一	四、二五二、八四〇
總 計	四、四七六、六七一	—	—	—	—	—	五九一、九四一	二二二、〇五七
								五、二八〇、六六九

一九二三年の買付結果は極はめて不満足であつて、羊毛企業は充分の供給を受け得ざりしのみならず、價格高く、牧羊者も亦賣却したる羊毛代價の一部を受取り得たるに止りし爲め、市場組織改善に對する問題を生じた、其形式は羊毛株式会社のものに倣つたものであつて、商業人民

委員會が中央調節機關として活動を開始するに至つて始めて實施された。

買付人の數を限定し、同時に價格を一定すると共に市場は健實味を加へた事は先に述べた、此方法は國營羊毛工業に原料を供給する買付人間の競争を中止せしむると共に、計畫買付作業に割込む個人の業務を阻止するにも都合が好かつた。(就中東南地方即ち北高加索に夫寺の弊害が多かつた)。

聯邦内部買付市場に羊毛株式會社が雄飛し得たるは、一九二三年中に重要買付地方に買付網を張つた時以降である、其重なる機關として作業せるはトルケスタン地方にありてはトルケスタン羊毛局、キルギス地方にありてはキルギス羊毛局である、一九二四年のシーズンにも、前年の買付に利益を占めたる個人業者が活動せんとせるも、計畫に依る購入機關は個人又は其代理業者の手を経て購入する事を拒絶せる爲め、業務不利に陥り、全部中止の運命を余儀なくされ、只國營工業と無關係なる新毛の買付にのみ従事した、之は市場整理上の大成功であつて、價格騰貴を希望して引渡を延す牧羊者も、個人買付への活動なきに至つて事情に馴れ、國營購入機關に至急買物を引渡すに至つた、従つて羊毛株式會社の購入計畫遂行は非常の好成績であつた。

一九二四年の買付シーズンは、羊毛株式會社が國營羊毛工業の中央原料購入機關として最も牧羊業者と接近した年である、其後會社が主要購入機關としての役割は、農村の産業組合に蠶食されて來た、同一九二四年如何に羊毛株式會社が牧羊者と密接なる關係にあつて活動せるかは、購入し得たる羊毛の賣方に依つて知る事が出来る、左表は其買付相手方表である、(單位平均一件の單位は布度)

買付相手方	買付件數	%	平均一件の重量
牧羊者	五、一五〇	九一、六	一六
農村組合	二〇七	三、七	五六
個人商人	一八〇	三、二	一七
國營機關	八四	一、五	二五
計	五、六二一	一〇〇、〇	一八

各羊毛所持者國內の買付件中の數量分布は左の如し。

買付一件の重量	各種買付件数の%
一布度以内	一五、六
牧羊者	〇、〇
農村組合	〇、〇
個人	〇、〇
國營機關	〇、〇
計	一四、六

一布度以上	三布度迄	一八、四	八、一	〇、〇	〇、〇	〇、〇	一七、〇
三 同	五 同	一七、四	三、九	〇、〇	〇、〇	〇、〇	一四、九
五 同	一〇同	一四、〇	一三、八	〇、〇	〇、〇	〇、〇	一二、八
一〇同	二〇同	一二、八	一六、三	三、三	五、二	一三、〇	九、一
二〇同	三〇同	七、四	一七、四	一七、八	六、一	九、一	四、五
三〇同	四〇同	四、六	九、四	一〇、四	一〇、〇	四、五	三、二
四〇同	五〇同	二、四	六、五	一四、三	一一、一	一、四	一、七
五〇同	六〇同	一、四	三、八	一八、三	〇、〇	一、四	〇、〇
六〇同	八〇同	一、六	二、三	二、一	〇、〇	〇、〇	〇、〇
八〇同	一〇〇同	一、八	四、四	一、二	一八、〇	二、〇	二、〇
一〇〇同	一二〇同	一、二	四、六	一、四	一二、七	一、六	一、六
一二〇同	一五〇同	〇、八	三、〇	一、〇	一七、一	一、二	一、二
一五〇同	二〇〇同	〇、四	二、五	一、〇	一〇、五	一、五	一、五
二〇〇布度以上		〇、二	四、〇	一、二	九、三	一、五	

計 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000

一九二四年に購入された内國市場羊毛は合計左の如し、(單位キログラム)

地方別	粗 毛	半粗毛	細 毛	計
アストラハン	三七八、〇〇一	—	—	三七八、〇〇一
ザカフカズ	一五三、八九〇	—	九、〇二五	一六二、九一五
キルギス	一、八六五、三七一	二九五	一六、五六〇	一、八八二、二二六
クリミヤ	一四四、〇七八	一三五、一五一	三、五七一	二八二、八〇〇
ウラル、サラトフ	六〇四、三二四	六六	—	六〇四、三九〇
トルケスタン	五、五〇三、九〇九	五五、〇二〇	一一三、九五六	五、五七二、八八五
スターリングラード	二五〇、二二一	三三三	一、七三六	二五二、九九〇
北 高 架 斯	八〇三、八三二	三六、七四〇	一六二、七三五	一、〇〇三、三〇七
計	九、七〇三、六二六	二二七、三〇五	二〇七、五八三	一〇、一三八、五一四

上記の數量は牧羊事業地方に於ける全購入機關が買付たる羊毛の八八%に相當して居る。

一九二四年に至つて羊毛株式会社は、東方購入市場に於ける商權を確立する事が出來た、それ

は蒙古、西部支那、波斯等に於ける購入機關を擴大し、アフガニスタンとの國境方面とも取引を開始した、東方地方にて同年購入したる數量は左の如くである。(單位洗毛キログラム)

地方名	租毛	半租毛	計
アフガニスタン	四六六、〇一一	—	四六六、〇一一
西部支那	九二九、五九七	—	九二九、五九七
蒙古	五六九、〇五八	—	五六九、〇五八
波斯	—	二、四五二、八〇七	二、四五二、八〇七
計	一、九六四、六六六	二、四五二、八〇七	四、四一七、四七三

右の如く羊毛株式會社が東方市場を擴張した事は、見方に依つては、戦前に有して居た市場を取り戻した程度のものである、從來豫備として有して居た分は使用し盡し、且つ年と共に發達する羊毛工業は益々多くの原料を要求する、従つて國內購入不足分を、手近にして安價なる東方市場に求むる結果となつた譯である。

一九二五年の購入シーズンには、前年來の方法を準用したに止り、只若干購入現業員を増加した

に止まる、如斯擴張したる原因は、出來得る限り多量の農産物を買付くる事、及四方所在の國營及組合營機關に屬する購入機關をして、出來得る限り活躍せしむる爲めに外ならない、組織方面にありては二、三の變更が行はれた即ちカザクスタン羊毛局が新に設けられ羊毛株式會社其大株主となりトルケシタン羊毛局が廢止された爲め、會社は支店を設けて之に代つた、同支店はウズベクスタン、トルクメニスタン、キルギス等で購入業務を行ふものである、而してザカフカズでの直營購入を廢し、地方産業組合及國營商業部出張所を通じて業務を行ふ事とした。

先に述べたるが如く、羊毛株式會社と並んで羊毛買付を許容されたる購入機關の大部分は、シーズン初期に豫想せられたるが如く、主として輸出羊毛の買付に努め、商業人民委員會にて定めたる公定價格に依る事なく買付けて居たが、輸出廢止令が出され、且つ内國の原料にも不足を來して居た爲め、羊毛株式會社は特に高價に之を買上げる必要に迫られた。

購入現業員が過多なりし爲め、市場は神經過敏になつて居たが、幸に計畫は遂行された、計畫遂行の必要上より前年苜取りの洗毛さへ買付くるに至つた、一九二五年の購入成績は左表の如くである、(單位洗毛キログラム)

地方別	粗毛	半粗毛	細毛	計
アストラハン	二一四、四八〇	一三一	五、五五三	二二〇、一六四
ザカフカス	九一八、二四六	一一、六七九	五、〇六一	九三四、九八六
クリミヤ、ウクライナ	三六八、二五五	一七八、四二七	一八、二六四	五六四、九四六
カザクスタン	三、九五七、六八六	一六、二二六	二六、四〇五	四、〇一〇、三〇七
北高加索	一、五二一、二九三	五八、一三三	八八四、六八三	二、四六四、一一〇
スターリングラード	四一〇、七二九	—	一、一四七	四二、八七六
中央亞細亞	三、八〇三、七四七	一〇、五一五	五、六〇一	三、八一九、八六四
西伯利	九八、六九〇	—	四、二九二	一〇二、九八二
以上内國市場計	一一、二九三、一二六	二七五、一〇二	九五、〇〇七	一二、五一九、二三五
アフガニスタン	二、二六七、四八三	—	—	二、二六七、四八三
西部支那	三、〇八九、五一四	二九四、〇五四	二四六	三、三八三、八一四
蒙古	一、九五八、五二四	三九三	—	一、九五八、九一七
波斯	二五六、五六〇	三、〇九〇、〇二一	—	三、三四六、五八一

以上東方市場計 七、五七二、〇八一三、三八四、四六三 二四六 一〇、九五六、七九五

總計 一八、八六五、二〇七三、六五九、五七〇 九五、一、二五三 一三三、四七六、〇三〇

右の外三十五万六千四百九十四キログラムに相當する羊毛靴下や襪襪羅紗が買付けられた。

前記二千三百四十七万六千余キログラム中直屬の地方機關にて買付けたる數量は、一千六百七十三万六千五百五十キログラムにして、他は諸機關にて買付けたるものを轉買したものである、羊毛株式會社が内國市場にて直接買付けたる%は七五%四に當り、前年は八八%一であるから一二%七の減少であるが、之は委託代理人の數を増加したるに依るものである。

一九二六年の買付シーズンは一九二五年の業務と大差なし、左表の如く買付くる事が出來た(單位洗毛キログラム)

地方別	粗毛	半粗毛	細毛	計
アフガニスタン	三五六、〇五二	三九三	—	二五六、四四五
ザカフカス	一、四九一、三五〇	—	二二三	一、四九一、五六三
クリミヤ、ウクライナ	五二三、七〇一	一八二、〇六四	二二二、一六二	七二七、九二七

カザクスタン	四、六二四、五九八	一八、五九一	三三、九七二	四、六七七、一六一
北高 架 斯	一、五五七、五七四	四一、八一八	四八七、五八三	二、〇八六、九七五
スターリンダラード	四一五、四一三	一六	一、七三六	四一七、一六五
中央亞細亞	三、二七八、四五七	一九、三六一	一四、三四九	三、三一二、一六七
西 伯 利	四八〇、二九四	四、三七三	三三三、三三三	五一八、〇〇〇
以上内國市場計	一二、六二七、四三九	二六六、六一六	五九三、三四八	一三、四八七、四〇三
アフガニスタン	二、四五一、七五八	—	—	二、四五一、七五八
西部支那	三、〇九〇、四六四	七二八、二九六	一、〇四八	三、八二九、八〇八
蒙 古	四、二六一、七八一	五四三、六六九	—	四、八〇五、四五〇
波 斯	七五三、九八八	二、五三一、二〇一	—	三、二八五、一八九
以上東方市場計	一〇、五五七、九九一	三、八一三、一六六	一、〇四八	一四、三七二、二〇五
總 計	二二、一八五、四三〇	四、〇七九、七八二	五九四、三九六	二七、八五九、六〇八

此外内國市場で羊毛靴下及織紗襪三十一万二千四百八十五キログラムの買付をした、内國市

買付高一千三百四十八万七千余キログラム中、一千九十八万三千三百六十三キログラムは羊毛株式会社の直接買付であり、残余は(二百五十万四千四十キログラム)他の計畫購入機關より轉買したものである。

一九二七年の買付シーズンの特長として擧ぐべきは、クリミキ、北高 架 斯、カザクスタン地方の買付が、農村牧畜組合聯合會と契約して其手を経て行はれた事である、同年の購入計畫は左表の如くである。(單位洗毛キログラム)

地方 別	春 毛	秋毛(工業用)	計	秋毛(手工業用)	總 計
ラルガ下流	六〇九、六九	—	六〇九、六九	二六、六〇九	七四六、五八
北高 架 斯	一、六二〇、〇〇	—	一、六二〇、〇〇	五四〇、三三	二、一六〇、三三
クリミキヤ	三九、五八	—	三九、五八	二六、三九	六五、九七
ウクライナ	三六、八八六	—	三六、八八六	—	三六、八八六
ザカフカズ	八六、五三	八〇九、五三	一、六七九、二四	—	一、六七九、二四
トルクメニスタン	一、六四、二九〇	六九、二五〇	二、三三、五四〇	—	二、三三、五四〇

ウズベキスタン	一、三三八、八九三	二六〇、〇九八	一、〇六八、九一一	一、〇六八、九一一
キルギス	四〇一、九六五	四四、三三六	四四六、一九一	四四六、一九一
西部西伯利	三三六、九九二	二六、四四三	二六七、四八五	二六四、五七〇
東部西伯利	三〇三、七〇一	三三、三三二	三三六、〇三四	三三六、〇三四
カザクスタン	六、〇六九、二一八	—	六、〇六九、二一八	六、〇六九、二一八
以上聯邦計	一四、四七三、八五九	一、八九一、八九一	一六、三六五、七五〇	一、二七九、六八七
アフガニスタン	一、〇八一、一三〇	二七、四六〇	二、三〇九、五八〇	二、三〇九、五八〇
波斯	三、一三三、七九七	—	三、一三三、七九七	三、一三三、七九七
土耳其	一、六五八、八〇〇	—	一、六五八、八〇〇	一、六五八、八〇〇
チウウグチャク	二、〇七五、五九二	九五、〇〇四	二、一七〇、五九六	二、一七〇、五九六
クーリシヤ	五五二、七九七	一三三、八〇〇	七〇六、七九七	七〇六、七九七
カシユガル	八一九、〇〇〇	八二、九〇〇	九〇〇、九〇〇	九〇〇、九〇〇
バルガ(呼蘭貝爾)	三三二、七五二	—	三三二、七五二	三三二、七五二
蒙古	二、六五八、八八四	—	二、六五八、八八四	二、六五八、八八四

以上東方計 二、七五七、四八八 六九、二四六 二、四七七、二〇六 一 二、四七七、二〇六

總計 二、七五七、四八八 二、五二一、〇五五 二、六三三、八五六 一、二九七、六七七 二九、六二一、四三三

之を原毛に換算すると内國市場の分二千八百二十四万五千六百七十二キログラム、東方市場の分一千二百四十一万七千五百五キログラム、合計四千六十六万二千七百七十七キログラムとなる。

各年の買付シーズンに於る羊毛株式会社會社の業務を審査したる後、國營羊毛工業へ原料を供給する中央機關としての會社業務に付て言及する事とする。

計畫上から第一問題になるのは、會社が買付計畫を完全に遂行し居るや否になる、左に五年間を通じての業務状態を示す、(單位數量は洗毛キログラム)

年 別	市場別	購 入 計 畫	前 期 に 對 する %	數 量	實 際 購 入 高	計 畫 に 對 する %	前 記 に 對 する %
一九二二年	内國市場	一六、一二四、四七二	—	八、八五七、三二一	五四、九	—	—
	東方市場	—	—	—	—	—	—
計		一六、一二四、四七二	—	八、八五七、三二一	五四、九	—	—

一九二三年	内國市場	九、六四〇、五三一	五九、八	四、二五二、八三八	四四、一	四八、〇
	東方市場	四五〇、四五〇	一、〇二七、八二九	二二八、一	一	一
計		一〇、〇九〇、九八一	六二、六	五、二八〇、六六七	五二、三	五九、六

一九二四年	内國市場	八、五七〇、三二七	八八、九	三、一三八、五一六	一一八、三	二三八、四
	東方市場	三、一六一、三四〇	七〇九、三	四、四一七、四七三	一三九、七	四二九、八
計		一一、七三一、六六七	一一六、三	四、五五五、九八九	二四、一	二七五、六

一九二五年	内國市場	一一、八一三、三八七	一三七、八	三、五一九、二三四	一〇六、〇	一一三、五
	東方市場	六、五九七、八六四	二〇八、七	三、九五六、七九五	一六六、〇	二五五、五
計		一八、四一一、二五一	一五七、〇	三、四七六、〇二九	一二七、五	一六〇、一

一九二六年	内國市場	一四、二〇六、四五六	一一〇、四	三、四八七、四〇七	九四、九	一〇七、八
	東方市場	一三、六八五、四九〇	二〇七、四	四、三三二、二〇五	一〇五、〇	一三一、二
計		二七、八九一、九四六	一五一、五	七、八五九、六一二	九九、〇	一一五、一

此表を見る時は一九二二年及二三年には、購入計畫に比して各五四%九及五二%三を買付得たるに止るも、其後完全に計畫を實行し得たるのみならず、寧ろ之を超過して、一九二四年及二五年には一二四%一及一二七%五を買付くる事が出来た、購入の實際數量に於ては兩市場共に常に

増加して居るが、内國市場の計畫實行%は、一九二四年から減少して居る、之は内國市場に於ける計畫數量が過大に失する事を證明するものである、此所に於て極力東方市場にて買付けて内國市場の不足を補ふの必要に迫らるのである、其%は左の如し。

市場別	一九二三年		一九二四年		一九二五年		一九二六年	
	計畫高	購入高	計畫高	購入高	計畫高	購入高	計畫高	購入高
内國	九五、五	八〇、五	七三、一	六九、七	六四、二	五三、四	五〇、九	四八、四
東方	四、五	一九、五	二六、九	三〇、三	三五、八	四六、六	四九、一	五一、六
計	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇	一〇〇、〇

粗毛及半粗毛を豊富に有する東方市場にて、多大の活躍をなせる爲め、羊毛株式会社より原料の供給を受くる國營羊毛工場は、安んじて其生産計畫を遂行する事が出来、同時に羊毛株式会社は其使命を遂行する事が出来た。

羊毛株式會が各年買付シーズンに諸地方(内國)にて自ら買付け、又は他機關を通じて購入したる分を、全部順毛として擧げると左の通りである(單位キログラム)

地方別	一九二二年	同 一三年	同 一四年	同 一五年	同 一六年
アストラハン	五八、八二二	二二、五三三	五九、八元	三〇、四二一	四三、九〇
ザカフカス	三、五、七二	五、四、六二〇	三、七、七三	一、八、二、四三	二、六、三、八五
クリミヤウクライナ	四、三、六、五二	二、七、〇、七九	五、五、四、三	九、八、五、四	一、一、〇、一、四七
カザクスタン	五、四、九、八七二	二、四、三、八八〇	五、三、九、一〇二	五、九、一、七、六四	六、八、六、九、九
北高加索	二、三、七、三、八	一、三、三、六、九二	二、一、四、二、六、八四	五、八、三、四、〇一	三、七、九、六、五三
中亞細亞	四、三、七、九、八六五	二、六、九、八、九二	六、四、四、六、九〇七	五、一、九、七、六、八五	四、四、一、〇、四、四六
スターリングラード	二、三、九、三、四	一、四、〇、八、〇二	四、〇、五、七、二六	五、八、五、五、五、六	五、六、六、九、九
西伯利	1	1	1	一、七、四、八、四	七、三、九、二、三二
計	一、七、四、八、七、四〇四	七、五、六、一、六、八	一、五、九、九、七、三、四	二、〇、九、四、四、一、四八	二、〇、五、六、四、七、三〇
其 内					
直接買付	五、〇、八、六、五三	六、八、四、四、七五	二、二、六、八、八三	一、三、九、九、四、三二	一、五、五、三、一、〇、五
他を通じて	一、三、四、八、七、五二	六、七、一、六、九五	四、三、八、三、六二	六、九、四、七、七	五、〇、三、一、六、五

此中一九二三年に他機關を通じて買付けたる羊毛全部、及一九二五年に買付けたるものの中四

百七十九万五千二百七十八ロキグラムは、前年よりのストツク品である。

内國購入市場に於ける羊毛株式会社各支店の、五ヶ年間の業務は多大の好成績を収めて居る、即ち直接牧羊者と連絡を採つて、個人又は仲介業者の進出を阻止し、同時に多大の努力を以つて農村組合を買付業務に参加せしむる事が出来た、左に各年シーズンに於ける各團よりの買付數量を示すと左の通りである(單位原毛キログラム)

年 別	牧羊者		農村組合		國營機關		個 人		計
	數量	%	數量	%	數量	%	數量	%	
一九二二年	一、九、〇、二、五五	三、九、三	五、〇、三、五二	一、〇、一、二、四、四、七、二六	二、五、一、一、七、四、三、八、九	三、四、六	五、〇、三、八、六、五	一	一、九、〇、二、五五
同 一三年	四、六、三、七、七一	六、七、五	一、〇、三、四、三三	一、五	五、九、二、九、三	八、六	一、五、四、四、三、六	三、三、四	六、八、四、四、七、三
同 一四年	八、六、一、一、〇、六	七、四、〇、〇	一、四、四、〇、三、四	一、三、三	三、五、四、七、一	二、〇、〇	一、三、六、一、九、二	一、一、七、二、一、六、八、四、三	八、六、一、一、〇、六
同 一五年	五、二、五、五、八、四	七、七	四、三、六、二、六一	三、〇、〇	一、四、七、七、五、〇	一、〇、五	二、九、九、七、七、六	三、〇、八、一、三、九、九、四、三	五、二、五、五、八、四
同 一六年	五、五、二、五、三	六、〇	六、七、七、六、八	四、三、六	二、〇、四、六、八、四	一、三、二	一、二、六、〇、五、九	七、三、一、五、五、三、一、〇、四	五、五、二、五、三

一九二五年迄即ち農村組合を購入業務に引入れる前には、計畫機關の發令に依つて、牧羊業者

よりの買付が三九%三から一時は七四%迄増加した、農村組合の如きは1%から四三%六に至る迄急速なる増加を示して居る、國營機關は取り上げて云ふに足る活動をなさず、又何等増減の跡をも示して居ない個人商人、仲介人の活動は非常に減少した、且つ其減少は非常に規則的である、只一九二五年中央亞細亞にては、買付不足を憂慮し、責任數量を課せられたる機關が、個人商人から買付を行つた爲めに減少を示さなかつたのに止まる。

農村組合をして國營工業用原料を購入せしむる爲め、下級機關として活動せしむるを得るに至りたるは羊毛株式会社に採つて大なる成功であつた。

革命前と革命後の羊毛買付條件は非常に變化して居る、牧羊業者間の綿羊所有頭數が革命前には非常に多かつた爲め、大口買付が二、三ヶ月間に行はれた、然るに今日では小數づつの羊を多數の牧羊者が所有して居る爲め、買付機關も小區分に分れ、小口づつを買集めて一貨車としての送荷をなす必要がある、従つて短期間には業務が完了せず、春期から秋期迄連續するのである。各支店で急速に羊毛の受入をなすに付て、五ヶ年の經驗は幾多得る處があつた、例へば十一月一日を以つて買付數量精算則とし、八月一日を以つて其中間日とする時は、八月一日迄に買付得

たる數量を全買付數量に比すれば左の%を示し、年々八月一日迄に買付くる數量が年々増加を示して居り、結局好成绩なる事を示すものである。

一九二二年	二四%七	一九二五年	六六、〇
一九二三年	五七、八	同 二六年	七二、〇
同 二四年	六二、二		

購入に参加したる各個團體の相互關係は、(例へば牧羊者組合等)購入成績に多大の關係を有し且つ受入の遲速に及ぼす影響が多い。

一九二四年—一九二六年は商業人民委員會が羊毛購入の統制を行つたが、其八月一日迄に引渡を受けたる數量を、十一月一日迄に引渡を受けたる全數量に對して見ると左の%に當つて居る。

年別シーズン	牧羊者	農村組合	國營機關	個人商人
一九二四年	六二、八	一三九、一	一七三、〇	一八二、二
同 二五年	六八、五	(十)五、七	六七、一	(十)二八、〇
同 二六年	七六、三	(十)七、八	六八、六	(一)一、五
			七二、九	(十)二二、七
			六七、二	(十)四、八

之に依ると受入速度成績の順當なりしは牧毛業者との關係で、國營機關に付ては〇%九、個人商人に於ては四%で逆の不成績である、如斯一般的には受入速度が早くなつたが、之は必ずしも國營機關及組合機關のみの力に依るものでない事が明である。一
 席範に渉る所持者(一般牧羊者)に付て購入預約をなす事も、受入の速度を増さしむる上に於て効力がある。

一九二二年には此購入預約をなす事が出来ずして、總て新期購入ものであつた、然し一九二三年からは買付作業は常道に復し、預約數量が増加する有様であつた、買付開始期から八月一日迄に預約をされた羊毛數量(預約購入受入最盛期)に對し、六月迄に預約されたる數量を比較すると左の%を示す。

一九二二年	〇%〇	一九二五年	三二、四
一九二三年	二二、八	一九二六年	五六、二
一九二四年	二二、五		

實際の羊毛買付業狀態が變つて居るに關らず、内國市場の各種羊毛買付諸掛は歐洲大戰に比し

て安くなつて居る、其他の工業用原料作物購入諸掛に比しても決して高くはない。

歐洲戰爭の時代に設けられたる外國の中央羊毛機關(バルラ)さへも、戦後は一般に其使命の改定を必要とされて居る、其時に當り蘇聯邦の國家統制下にある羊毛買付中央機關たる羊毛株式會社が、業務を擴張して成績を挙げつつあるは特筆に値するものと認める、外國の羊毛買付機關はこれを實際の需要者たる工業に轉賣して利益を收むるを目的として居るが、蘇聯邦の羊毛株式會社は工業自身の一分派として活動するが故に、買付業務そのものより利益を得る事を目的として居ない、之が此兩大機關の間に存在する一大相異點である、羊毛株式會社は出來得る限り安價なる原料を工業に供給し、工業が其生産品を購買して多大の利益を得る事を援けて居るのである、此事實は結局羊毛株式會社の基礎を堅實ならしむる所以である、如何となれば羊毛株式會社の資本金中には諸羊毛トラストの出資金が多額を占めて居るからである。

蘇聯邦羊毛株式會社が外國の羊毛買付中央機關と非常に異なる點は、洗毛業務を會社の手中に收めて居る事である、會社が購入したる原毛は蒸氣洗滌又は水洗滌に付せられるのであるが、蒸氣洗毛所は北高架斯ネビレノムイヌ村にあるのみだが、水洗滌所は一九二六年迄に完成せる分のみ

でも左の諸地にある、(一)北高加索にては前記ネビレームイス村、(二)ラルガ河下流にてはヌタ
 トリンケラード町、(三)中央亞細亞にてはケレスケルキ、メルフ、ビシベツク、カラコリ村等、
 (四)カザクスタン地方にてはウタリスク、オレンブルク、カルマクチ、アルリエアタ、アルヤア
 タ、タールイクルガン、ジャルケツト、セミバラチンスク、サイサン、ベトロバウロウスク、ア
 リモリンスク、クスタナイ等の町村、(五)西伯利にてはウエルフネウジンスク、オロウヤンナヤ
 等の町村、此外東方購入市場にも二十個所余の洗毛所がある。

工業の一部機關が轉賣を目的とせずして、羊毛の最初の加工たる洗毛に従ふ事は、品質を保證
 する上に付て多大の意義を有して居る、洗毛の際純分が不純分と共に夫はる事は生産者に採つ
 て大なる苦痛であつて、其分量に依つて羊毛の價值が左右されるからである、従つて轉賣を目的
 とする機關の洗毛は必ず不充分にして、工業企業が自ら洗毛したるが如き用意周到なるものでな
 い、蘇聯邦の羊毛株式会社は毛織工業の一分派として、出來得る限り清潔して混合物なき羊毛を
 工場に供給する事を理想として居る、加之嚴格なる生産計畫に依つて一定品質のものを製出する
 目的で作業し居る工業に、原料を供給する形式である爲め、原毛の品質を一手の下に掌る事は非

常に必要とする處である、此目的を達するには工業自身が原毛品質の選擇をなすの外はない、此
 事情に基いて加奈陀の如きは、工業自ら原料羊毛の品質選擇を統制して居る有様である、洗毛と
 選擇事務を工業の一分派たる羊毛株式會社の手中に收めたる事も亦、計畫産業の一特長と認むる
 事が出来る。

羊毛株式會社が洗毛したる數量を見るに、一九二六年には一九二四年に比して十倍余に當つて
 居る左表の如くである。(單位キログラム)

年 別	内 國市場分		東方市場分		計
	洗毛に付し たる數量	洗毛後の たる數量	洗毛に付し たる數量	洗毛に付し たる數量	
一九二二年	1,603,370	846,037	—	1,603,370	846,037
同 二三年	2,110,948	1,157,119	—	2,110,948	1,157,119
同 二四年	7,057,419	4,096,409	1,331,319	5,427,728	8,214,137
同 二五年	7,133,965	3,557,728	2,406,445	1,751,284	9,791,400
同 二六年	13,254,326	7,015,644	5,104,859	3,337,133	18,359,159

第八章 農業組合の羊毛買付使命

一九二七年二月二十五日付、券働及國防委員會の決議したる農業組合の堅實及發展方法は、同組合が諸種の原料品を収集すべき事を高唱して居る、此決議に基いて組合は羊毛買付に重要な位置を占るに至つた、此事實は公共機關及業務の點よりして、組合の買付業務参加を重視せしむるに至つた。

組合は既に數シーズンを通じて、買付數量には多少の差異があるけれども、其業務にたづさはつて來たものである、即ち組合は既に一九二三年より獨立の購入機關とし、或は羊毛株式會社の分派として買付に従ひ、其成績は年と共に擧つて來て居る。

組合販賣は必ず相當の試験を経て後に行はるべきもので、其經濟上の實際に適合すべきや否は特に大衆に關係を有するものなるか故に、細心の吟味を爲すを要する、此意味に於て試験期を通じて好成績を擧げ來つたる此場合が、國營羊毛工業へ原料供給業務の表面に現れ來つたるは時期に適合したるものである。

一九二五年から農業組合は農村組合中央聯合會を代表として、獨立したる大購入機關たる資格獲得を主張したけれ共、國營羊毛工業には羊毛株式會社を通じて、羊毛を供給するを要すとの意見が盛であつた爲め一職された、如斯して羊毛購入戦線には波瀾があつた、然し羊毛購入戦線は國營機關と組合機關との不一致を利用する個人商人の活躍を、彈壓するに付ては一致して居た、一九二六年シーズン末迄の農業組合の狀態は、組織的なる牧毛業の代表者として活動する事が出來ずして、單に國營購入機關の仲介者として購入及轉賣をなしたに過ぎない。

一九二三年、二四年、二五年、二六年のシーズンを通じて組合は此狀態即ち購入、轉賣を行つて居た爲め、購入原價を釣り上げた形がある、羊毛株式會社としては如斯根底未だ強固ならざる組合を通じて、國營工業に原料を不足せしむる事なく、完全に責任を負ふて、同地方の受入機關擴張の危険を冒したくないのは當然である。

實際農業組合は主として農産物一般の買付を行ふもので、羊毛買付は余り重要ならざる片手間のものであるから、従つて其従事員に對して常に指導し指令を發するの手續に苦しんだ、州又は縣の組合は當該買付地帯内の羊毛を完全に買付ける責任を回避した、従つて羊毛株式會社は組合

が既に代理店として相當の活動をして居る地方にさへも、監督の爲め直屬機關を設ける必要を感じて居た、牧羊者聯合會を代表して居ない縣又は地方の、組合聯合會を経て業務を行ふ場合には受入の際品質検査を特に嚴重に施行する必要に迫られる之は此種組合聯合會の受入検査は極はめて不統一であるから、之を其まゝ受入る時は工業原料として不適當なるものが多量に含まれ居るが爲めである、會社で施行する洗毛は、組合の未熟なる技術員には理解する事が出来ない程嚴重であるから、是非組合の洗毛所へ會社の技術員を派出して指導監督する必要がある、此等の事情が購入諸掛の増加を來し、従つて購入費の騰貴原因となるのである。

上記の如き組合の缺點に依る失費の外に、組合は其加入員の利益を多くする爲めに、幾分の利益を計上するのは當然である。

一九二六年のシーズンには商業人民委員會が固守する購入價格政策上、觀過することの出来ない現象があつた、それは農業組合及其購入網が規定上の價格の外に利益を豫想して、牧羊者に割増を與へた事である、然し商業人民委員會の統制下に行はるる羊毛買付業務は、諸掛りに對して嚴重なる規則を定めて居るから、外部から見ゆる如き利益の收受を許さない、従つて割増金を

利益金中より求むるが如きは不可能であるから、其行爲は明に規約を冒して居るものである、其外ソウエートの建前としては、國家に組合として賣却をなすは、仲介機關の諸掛りを節約して生産者の利益を多からしむるを目的としてゐる。即ち中間網の利益を少なくして行くべき筈で、國營工業に原料を高く賣つて利益を見るべきではない、換言すれば原料を安價に賣つて安價なる毛織物を買ふべきである、即ち購入者が自由購入市場であつても、國家工業であつても此原理に二二様は無かるべき筈である。

牧羊者が一定の價格外に割増金を受くる事は、工業原料の高價を來す事であつて、彼等自ら高き諸掛りを負擔する結果となる、此多額を要したる諸掛りを工業に負擔せしむる事は合法的でない、此點は蘇聯邦の農業組合と外國のそれと異なる處である。

外國の此種組合は個人の牧羊者の聯合代表として市場に進出し、混合保管し居る羊毛を出來得る限り高く賣り捌く様努力する、此サーピスに對しては報酬として賣價の一分五厘を天引する、而して業務年度末に組合員は各持株と依頼したる羊毛の數量に従つて、収入金より諸掛りを控除したる差額を比例分配するのである。

外國の組合は組合員より利益報酬を受け、蘇聯邦の組合は國家より利益金の分配を受ける、之が大なる相異點である、外國の組合は牧羊者が羊毛を引渡す際に、將來收受すべしと豫想する利益の一部分を前渡するが、蘇聯邦の組合は將來收受せらるべき利益全部を加算したるものを交付されて居るのである。

羊毛株式會社が力を盡して下級組合網に對して羊毛購入に關する指導をなし、一方組合は獨立したる牧羊者の生産部門を組織したる爲め、一九二七年のシーズンより、其根底堅實となり、獨立したる購入機關として業務を行ふも別に心配なきに至り、其參加あるも諸掛りを増加するが如き事なき確信を得た。

一九二六年には農業組合の全事業中牧羊業務は多大の發達をなし、一部は綜合的の地方聯合會を通じ、一部は直接中央機關と連絡して業務を行ふ様になつた。

一九二七年の始めに現存したる牧羊組合網は、北高加索百三十六、クリミア三、ウクライナ二、ダゲスタン七、ザカフカズ九、西伯利四十一、其他の地方七十一、合計二百六十九組合である、ザカフカズの九組合の如きは同地方牧畜戸口の九%を加入させて居た程である。

牧羊聯合會と地方各個組合間には共通契約があつたが、其主要條項は左の諸點である、(一)牧羊聯合聯合會は農業組合聯合會より組合別に貸付金を受け自己の責任を以つて羊毛の買付をなす(二)買付たる羊毛は農業組合を經由して賣却す、其經費に充つる爲め農業組合は賣上高の四分を受くるものとす、(三)純利益は、其一割五分を牧畜改良資金として控除したる後牧畜組合に交付され、牧畜聯合會、下級組合及羊毛を供給したる牧羊業者間に分配さるるものとす。

一九二七年に至つて既述したるが如く、農業組合と羊毛株式會社との間に根本契約が調印され地區別に其組合を通じて、羊毛の買付をなす事となつた、其結果會社は其組合地域内には單に受入所を設くるに止め、全部の業務を農業組合に移讓するに至つた、而して農業組合が全部の買付をなす義務を負はざる地方にあつては、會社は自ら買付をなす權利を保留し、又組合は其買付けたる羊毛全部を會社に交附する事とした。

其契約に依り組合と會社間に定められたる交附數量は左の如くである。(數量單位キログラム)

北高加索	一、六八七、一四〇	カルモプラスチ	二六二、〇八〇
ダゲスタン	六五五、二〇〇	アゼルベインヤン	三一一、二二〇

北高加索の一部では農業組合聯合會が、其地方羊毛の全部買付義務を負はざりし爲め、羊毛株式會社に余儀なく一時的契約を結び、七十三万七千キログラム余の買付交附を受くる事とした、クリミア地方では七十萬四千三百四キログラム買付の契約を農業組合聯合會と結んで、羊毛株式會社は受入所を廢したるのみで全部引揚げた。

ザカフカズ地方にありては既に一九二四年より羊毛買付業務は、地方農業組合と國營商業機關との手中に統一されて居た爲め、一九二七年以後も此方針で進んだ、一九二七年の契約に依ると農業組合聯合會は、羊毛會社の依頼に依つて羊毛を買付け、總て原毛のままにて會社に引渡す事となつた、其勘定は洗毛、乾燥を行ひたる後の純分の數量に依つて行ふのである其代價は商業人民委員會の定むる處に依り、手数料として各地組合が其數量に應じて別に受くるものである。

カザクスタン及ザカフカズにては原毛にて引渡して代金決済を受ける。

蘇聯邦の産業は周知の如く總て一定の計畫に基くものであるから、工業用羊毛の買付をも統一する事は、現行法規に最も適合するものなる事は疑なき處である、従つて或る工業が其原料を、

一定の契約に従つて中央原料買付供給機關から受くる事は、最も堅實なる建前である、羊毛買付地方の農業組合を廣く包容する事は決して原料購入懸線を擾亂するものでない、如何となれば各地の農業組合にて買付けたる羊毛は、必ず一度中央購入機關たる羊毛株式會社の手に受入れられ検査されるが故に、品質に於ても安心して使用に堪へ、數量も計畫と大差を生ずる事がない、如斯して羊毛の合同賣却に關する組合の業務は、各個の牧羊業者の生産物賣却を統制するから、工業と内國買付市場との間を隔離する惧がない、手工業原料羊毛買付に付ては、農業組合は必ず全力を擧げて個人商人の業務を阻止すべきである。

農業組合が羊毛買付を完全に實行するに付ては、尙幾多改善すべき余地がある、其主なるものとして當事者の注意を引くものは左の如くである。(エヌエフ、コレスニコフの説)

(一) 牧羊業者の権利及課稅額を正確に定めて置く必要がある。

(二) 牧羊事業用土地は第一着手として組合間にて確定する必要がある、且つ本事業には他機關の容喙を許さざるのみならず、共通問題の決定に際しては、農業組合聯合會代表者を参加せしむるを要す。

(三) 計畫産業制度に基くと農産品就中羊毛の市場は、最も確實に組織するを要する、只必ず農業組合を以つて其地方に於ける唯一の買付機關とする事を條件とする。

(四) 金融額は組合が買付くる羊毛の數量と、牧羊事業改善の範圍内に於て爲さるべきものである。

(五) 価格は同一種の羊毛の品質に基き他の生産品及工業生産品の價格を參酌して定むべきものである。

只第三項に付ては異論があつて或は組合地域内に工業企業を代表する受入所を設くべしと云ふ説及進んで洗毛所をも設くべしとの説がある。

第九章 個人商人の羊毛買付

歐洲大戰後個人商人にして羊毛買付をなしたるは、主として手工業に用ゆる新毛及絨であつて其用途は粗製手織、フェルト等の原料である、工業用羊毛も時に彼等の手に依つて集めらるるもそれは彼等か自ら遊牧士人間を歩き廻りて買集め之を國營及組合營機關に轉賣したもので其額は

従つて少量である、其業務は總て買付人が購入機關の金で行ふものであるから、何等自分の金を用ゆる事がない、従つて今日の計畫産業の上から見て、彼等買付人の参加する事は計畫購入上有害とは認められずして寧ろ同業者として遇すべきものである。

以上記述した處は羊毛買付市場を整理した以後の事であつて、新經濟政策施行後、國營及組合機關が買付制度を確立する迄の間、即ち一九二四年迄は、工業用羊毛の収集にも多くの個人商人が活動し、此所に資本主義的投資を行はんと計つた。

羊毛株式會社の資料に依つて、一九二三年のシーズンに活動したる個人商人の成績を示すと左の通りである。(單位原毛キログラム)

地方別	數量	其内國營工業に轉賣したる分	%
アストラハン	四七八、二九六	二九八、一一六	六二、三
トルケンタス	四、三五七、〇八〇	一、五六九、二〇四	四二、四
東南地方	一、五一八、四二六	九九〇、九九〇	六五、三
ザカフカス	四八三、二一〇	三六八、五五〇	八九、九

ウラル

一一三、〇二二

五〇、七七八

四四、九

計

六、九五〇、〇三四

三、二七七、六三八

四七、一

概言すれば個人買付額の半分は國營工業の原料となつたわけである、國營工業に轉賣したる分三百二十七万七千六百三十八キログラムは、其當時國營工業用として買付得たる總量、一千百十四万キログラムの約三分の一に當るのであるから、決して少ない量とは云ふ事が出来ない。

此數字は先に個人の手にありて、後に國營工業の手に入らしもの全部を含む點から見ても、時に非難さるべき處がある、同一羊毛を色々の人の手を轉々させる事は徒らに計算を複雑ならしめ面倒を醸す、此意味で實際個人が集めたる分のみを計算すると、同年中に七十一万九千キログラムに過ぎない。

手許にある資料に依つて諸地方に於ける個人商人の活動の跡を見れば左の如くである。

アストラハン地方にては、戦前に羊毛の大口買付に従事せる所謂金持連中が依然として買付に當つた、彼等は四十七万八千二百九十六キログラムの羊毛を集めたが、其価格は十五万三千留で其中二十九萬八千百十六キログラムを國營工業に轉賣し、九萬八千二百八十キログラムを手工業

者に賣渡し、八萬一千九百キログラムを波斯に輸出した。

ザカフカズ地方にては、シーズン中に一萬五千キログラム(約一千布度)を集めた、合計五十万キログラムの成績を挙げ得たものと思はれる、之を平均價格で計算すると四十九万四千二百留に當り、此中三十六万八千五百五十キログラムの羊毛が國營工業に轉賣された譯である。

ウラル地方で買付を行つた個人商人は小資本であつたが、其一部は商工組合を組織し、買付數量は十一萬三千二十二キログラム、金額四万四千三百留で、其中四万九千キログラム余が國營工業に轉賣された。

東南地方に産する豊富にして高級品なるメリノス羊毛は、個人商人の注意を引いた、此地方には比較的巨額の資本を有する個人商人が多数の取引を行つた、個人の總買付高は百六十万キログラムに及び、金額に換算して二百萬留に達する、其中百万キログラムが國營工業に轉賣されて居る。

トルケスタンでは個人商人が非常に活躍したが、其方法は歐洲大戰前の方法と同様であつて、總額四百三十萬キログラムに及び、價格は二百十六萬五千留に達した、國營工業に轉賣された數

量は百六十萬キログラムである。

一九二三年のシーズンに個人商人が羊毛買付に投資した總金額を、正確に知る事は極はめて困難で、色々の想像を加へて辛ふして若干近いものを知り得るに止まる。

尙ほ個人商人の利益に付ては買付シーズン中に個人商人が拂ふ代價の統計、買付けて轉賣したる貨物統計又は其時期に關する統計等に依り、尙其時期に依る諸掛りを計算して、彼等の支拂たる金額及利益を推測する外はない、各地方別に個人商人の受けたる利益を想像すると左の通りである。

アストラハン	七五、〇〇〇留	東部地方	九一〇、〇〇〇
ザカフカス	一八〇、〇〇〇	トルケスタン	四一二、〇〇〇
ウラル	二七、〇〇〇	計	一、六〇四、〇〇〇

國營工業に轉賣したる羊毛のみにて此巨額を得たる事實は、如何に個人商人の活躍を鼓舞したるかを知るに足る。

一九二三年のシーズン後個人商人は、春毛を斷念して専ら秋毛に興味を感じる様になつた、秋

毛の買付に付て個人商人は、國營又は組合營の購入機關の代理人となり、中央亞細亞、カザクスタンの如き其機關網の少なき地で活動し、又スターリングラード、クリミヤ、アストラハン等の地方に於ては國營、組合機關の競争者として活動し、買付けたる秋毛を手工業者に多く轉賣したる春毛は其特質上手工業の原料としては不適當であるが、比較的安價なるが爲めに同じく若干づつ買付けられて居た、近年は個人買付は國營又は組合營の買付に對して影響を及ぼす程の事がなかつたが、市場を破壊し、國營への引渡を遅からしむる爲め、部分／＼に付て云ふ時は相當不愉快なる場合があつた。

春毛の個人買付は大に減少したりと雖も尙相當の數量に達し、一九二六年のシーズンに國營工業に轉賣したる個人買數量は左の如くである。(單位キログラム、金額は留)

地方別	數量	想定金額
クリミヤ	二四五、五七〇	三〇〇、〇〇〇
ウクライナ	九八、二八〇	九〇、〇〇〇
カザクスタン	六五一、九二四	四一八、〇〇〇

スターリンググラード	二四五、七〇〇	三七五、〇〇〇
北高架斯	二二一、一三〇	二七〇、〇〇〇
中央亞細亞	四四二、二六〇	三二五、〇〇〇
アストラハン	九〇、〇〇〇	五五、〇〇〇
西部西伯利	二四五、七〇〇	四五〇、〇〇〇
後具加爾	一〇六、四七〇	六五、〇〇〇
計	二、三四七、一二四	二、三四八、〇〇〇

個人商人の活躍する舞台は、前述の如く主として秋毛買付市場であつて、其年別買付高は左の如くである。(地域は「ソ」聯邦内、單位キログラム、金額留)

シーズン別	數量	金額
一九二三年	四、九一四、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇
二四年	六、五五二、〇〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇
二五年	一、四六六、〇〇〇	一七、五〇〇、〇〇〇

二六年 一六、三八〇、〇〇〇 二五、〇〇〇、〇〇〇

個人商人の秋毛買付は、春毛買付に何等の影響がない様である、然し其間に全然無關係とは云ふ事が出来ない、如何となれば、秋毛市場は一定の組織なく個々の活動に任するが故に、春毛市場に比して價格も區々である爲め、國營羊毛工業用原料としての秋毛買付に、統制を案す惧がある。

個人買付人は多數手工業との間に一定の契約を結び、其依頼に依つて彼等の所謂計畫購入をなす、彼等は或は手工業者の出資を以つて、或は私財又は借入金にて買付をなす、第一の場合彼等は、純然たる仲買人であり、第二、第三の場合には、純然たる自己のリスクにて商行爲を行ふもので、其利害は一に自分の責任ではあるが、手工業者より經濟的に制肘される立場にある。

春毛買付に當りては國營買付に對する直接の競争者であり、秋毛買付に對する間接の競争者たる個人商人撲滅策を講ずるに付ては、歐洲大戰前の實例を参照するを要する。

戦前羊毛手工業は、農村手工業中極はめて重大なる役割を演じた、羊毛大工業の従業員は七千七百人にて、生産年額五百二十萬留に過ぎざるに、羊毛手工業は従業員十七萬、生産年額三千

万留に及んで居た、以つて如何に重大なる意義を有し居りたるかを知るに足る。

手工業者が原料を取得し、生産品を賣却するに當つて、其自主的でないのに一驚を喫する、シリフシテイン教授は左の如く分類して居る。(別表數字は各%である)

原料	取扱	後	の	別	製品	賣却	の	別
特派員より	手持品	仲介者より	特派員へ	直接市場へ	仲介者へ			
二二	二一	五七	二四	一六	六〇			

之に依つて見ると戦前羊毛手工業者は、仲介者の爲めに常に逆に制肘されて居た事を知り得る。此事情は非常に重視すべきものである、如何となれば羊毛手工業者の利益の大部分は、仲介者の手中に落ちたのであるから、革命後國家が羊毛手工業界に一定の組織を立て、之を施行するも、手工業者は利益を得る事あるも、損害を蒙る事無かるべきが故に、失職すべき仲介業者よりは反對の聲を聞くべきも、實際の手工業者よりは何等反對のあるべき筈なきが故である、従つて國家が羊毛手工業に干渉する事は、寧ろ彼等より好感を持たれ歓迎される有様であるか、原料購入市場にありては、之に反して戦前の状態が復活して來て、國家及組合の機關が手工業に原料を供給

する業務は、個人商人の爲めに侵害せらるる様な矛盾の状態を現して來た。

之が明白なる一例として一九二六年のニジエゴロツドの定期市を挙げる事が出来る、即ち同定期市は數年間連続して春期羊毛相場を混乱せしめ、其出荷を遅延せしめた、同一九二六年同定期市にては注文が出荷より少なかつた、之は皆個人商人の所謂計畫買付の結果である、彼等個人商人は既に自分の買付ける羊毛を地方に止めて出荷せずして、余分の不必要なる買付を定期市に於て試み、定期市出國人は比較的高價な駱駝毛を、(約十萬キログラムに及ぶ)個人商人に有利に賣る事を得ずして、規定價格にて羊毛株式會社に賣つた程である、此不利に陥つた賣手(定期市に出品したる)中には昔から新業に従事して居た商人が多く、彼等は現今の巧妙なる個人商人に比して、手工業者と連絡を採つて居なかつた爲め、適當なる買手が付がなかつたのである。

尙個人は小個人事業及金融を受けたる事業の爲め、及國營又は組合營事業の爲めにも直接に原料供給をなす、現今此種の數量は巨額なりとは云ふを得ざるも、若し國家が適當に干渉せざるに於ては益々増加する惧がある。

個人商人の直間接の進出を撲滅するには、彼等の業務の根據地を突いて之を破壊するより外は

ない、行政處分即ち一定地域外に羊毛の搬出を禁ずる事、運送上の壓迫、特加課税、買付禁止等の手段は此競争を停止せしむるには比較的效果が少なくして、最も有効なる方法は手工業者間に完全なる組合組織を設くるにある、其形式は手工業者の組合として、國營及組合營の、中央買付機關と密接なる連結を採らせ、中央買付機關は手工業者に充分に原料を供給し、以つて彼等をして仲介人仲買人と手を断たしむるにある、個人の手工業用羊毛の組織的買付の地盤を奪ふ事は、手工業者の負擔を軽くすると同時に、國家に利を與へ、買付市場の不安を一掃するものである、今日羊毛手工業者が一見國家と反對側に立つが如く見ゆる事は、事情上止むを得ざるに出でしものである。

若し手工業用羊毛買付を組み立てるのに相當の期間を要し、其間に羊毛市場に或る種の干渉を必要とするならば、直に立つて個人商人の業務を打破する爲めに強制力を用ゆる事も不可能ではない。

一方から云ふと手工業者が仲買人に原料品代を高く支拂ふ事を得るは、彼等の生産品に對して需要市場が高く買上げるに依るものと見る事が出来る、此價格を打破するには國營及組合營工業

の製品價格を引下げる方法がある、一体國營及組合營工業の製品は、嚴格なるトラストの價格表に左右せらるる工場の製品に比して高價である、若し此方法を實行する時は、個人手工業者は手工業労働組合の製品は、値下げせざるに於ては販賣する事が出来ない、従つて彼等は原料購入費を引下ぐるに至るべきは明である。

尙個人羊毛仲買人の業務を撲滅する事は、國營及組合營工業が彼等から原料を購入する事を得ず、規定する方法がある、又個人の依託に依る製織を中止する方法も有効である。

商業人民委員會にて認可せざる羊毛買付人に對して、銀行及金融組合が金融を爲さざる方針を採るも一方法である。

此意味に於て一九二七年以降は農墾組合及全聯邦手工業組合聯合會が表面に立つて、個人羊毛買付人と對抗して戦線を張る豫定である。

第十章 結 論

世界人口の増加と之に比例する毛織物使用の増大とは、世界的に羊毛の需要増加を來すは當然

である、此所に於て將此需を満足に充し得るに足る羊毛の生産を期待し得るや否やの問題が重大視されて來る。

一九二二年—二三年に羊毛界はカヌストロファに陥らんとした、前記米國羊毛界の牛耳を握るワルラ支配人アーサー、ゴリドフィンチュは、近く羊毛飢饉の出現すべきを豫言し、米國のテリスタイル、ワールド誌の年報中に左の如く云ふて居る、曰く「如斯き言を爲すは甚だ悲しむべき事であるが、世界の纖維工業は一九二二年—二三年に原料として使用したる羊毛以上を、近き將來に入手し得ざるに至るべし」と。

幸にして同人の言は急に實現せられなかつた、世界的に重要な羊毛生産地の生産高は増加し需要を充し得る状態である、然しながら生産増加は、需要増加に及ばないのではないかと懼れらるる點もないではない。

今日の海外の經濟状態に基いて牧羊擴張問題を審議するに、一定の地域内に大規模の牧羊をなす事は技術上可能なりや、又實際如斯き事業が有利なりやの點に疑問が生じて來る、簡単に云へば農民が牧羊に従ふことが他の業務に従ふよりも有利なりや否やの點に歸着する、最近二、三年

の状態に依れば羊毛の價格は、他の牧畜製品及農産品に比して比較的高價であるから、羊毛工業上好都合であると云ふ結論を得る、然るに蘇聯邦に於ては計画的産業の結果、全然之と相反したる傾向を帯びて居る。

蘇聯邦に於ける羊毛生産増加を計るには技術的、組織的の施設を行ふ事を要する、其二、三の點を擧ぐれば左の如し。

(一)如何にして現在有する羊より得る羊毛數量を増加すべきか。

(二)如何にして改良種羊の數を増加すべきか。

(三)今日迄世界市場に衣服用羊毛を出し得ざりし羊種を如何にして改良すべきか。

羊毛の自然増加が、需要増加に追隨する事が出來ない事が明であるとしたならば、何等か之に代るもの、又は混用し得る代用品を求むる必要が生じて來る。

羊の改良を施行する時は、各一頭より採集し得る羊毛の數量を著しく増加する事が出來る、之は濠洲牧羊界の實驗が明に證明して居る、即ち試験の結果一八八八年には一頭より五英斤二、一九〇〇年には五英斤八、一九一〇年には七英斤八、現在では八英斤三を出し得る迄に進んで居る

此改良は比較的長年月を要する欠點があるが、此所に人工的に羊毛刈取量増加の試験が行はれた、一英國雜誌の報する處に依れば、日本の一獸醫は自己發見に係る藥液を羊に注射して羊毛成長を早からしむる事に成切した、其報告に依ればメリノス羊は一年一回刈取るものなるに、一ケ年に六回刈取り得る由である、但し此發見は未だ世界羊毛界にセンセーションを起すに至らず、實行不可能の如く認められて居るが、英國の世界的權威者パーイー博士の如きも、日本獸醫の此方法は實行の余地を發見し得べしと云ふて居る。

次で有名なる「若返り法」博士ラローノフは、その實驗を北アフリカのメリノス羊毛に對して行つたが、佛國雜誌は其人工若返り法の實驗は各一頭の刈取數量を充分増加し得る事を報じて居る同氏の實驗は老羊の若返りをなすと同時に、若羊の成長増進をなす、成長増進をなしたる若羊は自身の毛の量を増加するのみならず、之と交配して得たる仔獸の毛量をも遺傳的に増加する、ラローノフの説に依れば同氏の方法を用ゆる時は、全世界の羊毛量を二五%増加し得る由である、或は之を以つて痴人夢を説くと云ふ人あるべきも、全然否定すべきものでない。

現代は土地の利用が極度に緊強し、従つて地代が騰貴して居るのは事實であるけれ共、尙相當

程度迄牧羊事業を擴張し得べきを疑はない、之は新土地を羊牧場として開拓する事、及在來の羊を改良する事に依つて目的を達し得るものと思ふ、例へば一九二五年中濠洲新聞の報する處に依れば、同政府に牧羊事業擴張案を立て、南緯二十度以北の地を以つて之に充てん事を説いて居るが其地域は全領土の三分の一に當つて居る、從來其土地は何等利せらるる事なく、人口の如きも極はめて稀薄であつて四千人に過ぎない、此地域を中心として一行政區域を設けダルウィン町を主都とし、クインズランドの及西濠洲の各北部を之に合併せんとした。

同地方は熱帯に入つて居るが水利の便あり、濕氣不足は只南部の少部分に限られて居る、將來此地方には大規模の移住と羊の移動を行ふべく、同時に交通の便を開く筈である。

濠洲政府の云ふ處に依れば、此地方には二千万頭の羊を放牧するを得べく、現在毎年の刈取羊毛二百萬俵に加ふるに三十二萬俵(一億六千萬英斤)を増し得る由である。

現在の處此計畫は實行の域に達して居ないが、將來羊毛の價格尙騰貴して採算可能の時期に至らば、必ず實現さるべき可能性を有して居る。

一九二六年に嘗て牧羊事業の行はれたる事無きコロンビヤに、メリノス種羊を飼養せんとする

計画を立てられた、それは米國資本家の發意に依るもので特別調査隊が派遣され、其報告の結果有望なる事明となり、牧場買入手續も終了したから、近く種羊が送付される事と思ふ、事業の指導には經驗ある専門家が當り、近代牧羊科學を應用すべき資金が支出される筈である。

半改良羊(粗毛種との雜種)の改良は非常に重大なる意義を有し、其羊毛は世界市場の取引目的物となす事が出来る、南米ベルー政府が牧羊事業改善の爲め採りたる此手段は有効であつたが、同政府は其立案の爲めに前記英國のパーカー博士を招聘し、數ヶ月に涉つて現地に於て同問題を研究した、同氏は同國試験場に主なる牧羊事業家を集め、其調査の結果を發表したが、それは牧羊改良によりして地方的と云はんより、寧ろ世界的意義を有するものであつた、同氏はベルー羊群の欠點として、羊毛の種類多種に涉り居る事、黒色羊毛の%多き事を擧げた、(ベルーの羊群は土産粗毛羊と種々なる改良羊との無秩序なる雜種より成る)、博士は現在の羊群内にて近世動物學を應用して改良すべきを力説し、就中英國に於ける四年間の研究、實驗の結果黒色羊毛の減少又は絶滅を期待し得る事を聲明して居る、(英國にてはウエンスレイ種黒色羊全部を撲殺した)諸牧場を巡視したる結果ベルーの氣候及地勢は、牧羊上濠洲に劣らざる事を知つた、尙地方土産

牝羊とメリノス牡羊(ランプリエ)の雜種を作り、次で之と英國の食川羊とを交配すると其結果明白かるべしと論じ、之はグランハモテロ市にある國立試験場にて試験する事となつた。

如斯ベルー政府が世界的動物學者羊毛界の權威を招待して羊種改良に努むるは、如何に同國の上下を擧げて注意を拂ひ居るかを知らるに足るべく將來同國に羊毛の世界的供給市場となる事を疑はない。

最後に粗毛牧羊事業を細毛牧羊事業に代へ得るや否やに付し一言する、絨氈用羊毛のみを産する羊を適宜にメリノス種羊と交配せしむる時は、薄羅紗製織に適し、細毛にして品質の統一したるものを産する羊に化せしむる事が出来る、現在蘇聯邦にて行ひ居る廣範なる雜種の如きも、メリノス羊毛を得んとするに外ならない、普此事業はメリノス牧羊の復活と稱せられ、改良種形成の一方法であつて、株式會社オフツエラード(牧羊株式會社)が主として行つて居るところである。

同會社の生産計畫に依れば、近き將來に於て國營牧羊事業は左の如く雜種を得る筈である。(單

位千頭)

年 別	粗毛牝羊	メリノス牝羊	雜種
一九二六年	一〇〇	八〇	一
二七年	三〇〇	一〇〇	一
二八年	六〇〇	一二五	四二、四
二九年	一、〇〇〇	一五六	二〇五、二
三〇年	一、〇〇〇	一九四	五九五、七
三一年	一、〇〇〇	二四〇	一、三六〇、七
三二年	一、〇〇〇	三〇〇	二、四九一、五
三三年	一、〇〇〇	三七五	三、九八七、四
三四年	一、〇〇〇	四七〇	五、九二四、六
三五年	一、〇〇〇	五九〇	八、四二一、一
三六年	一、〇〇〇	七四〇	一一、四三八、一

此計書は組織的に左の方法に依り實行する筈である、(一)國營大牧羊事業を興す事(牧羊株式會

社を責任者として)、(二)組合、國營、共營農業及個人農業と連絡を採る事、(三)國營種畜場所屬牧羊を交尾所に派遣し民間の牧羊と交配せしむ。

現に種羊は外國より輸入しつつあるも、其數を増加せしむるを要する、民間所有メリノス羊も自然的に増加すべきに依り、未洗絨のメリノス及雜種羊毛は左の如く増加するものと認む。(單位屯)

年 別	大企業生産の分			計
	メリノス毛	雜種毛	民間所有メリノス毛	
一九二六年	三二七、六	一	一、六三八、〇	一、九六五、六
二七年	四〇九、五	一	一、九六五、六	二、三七五、一
二八年	五二四、二	一四二、五	二、六二〇、八	三、二八七、五
二九年	六五五、二	六七九、八	三、二七六、〇	四、六一一、〇
三〇年	七八六、二	一、九九〇、二	三、九三一、二	六、七〇七、六
三一年	九八二、八	四、六〇四、四	四、九一四、〇	一〇、五〇一、二
三二年	一、二二八、五	八、五四三、八	六、一四二、五	一五、九一四、九

三三年	一、五五六、一	一三、九八八、五	七、七八〇、五	二二、三二五、一
三四年	一、九六五、六	二一、七二八、一	九、八二八、〇	三三、五二一、七
三五年	二、三七五、一	三一、六六〇、九	一一、八七五、五	四五、九一一、五
三六年	三、〇三〇、三	四二、五八八、〇	一五、一五二、五	六〇、七六九、八

此数は蘇聯邦の羊毛工業に充分供給して余つあるべきを疑はず、細毛牧毛を國營大企業にして行ふ事は幾多の文献があるから此所には之を省略し、單に個人牧羊に付て記述する事とする、之は大國營企業の如く時として採算を無視するものと異り、常に自由市場の規則に依つて發達するものである。

周知の如く露西亞に於けるメリノス牧羊の衰微は、既に世界大戰前から現はれたものである、産業の資本化時代に發達したる細毛牧羊事業は、新らしき經濟狀態には適合する事が出来なかつた。

産業の資本化は各種産業の連續性、収利性を第一目標としたが、其當時の細毛牧羊事業は此目的に副はない處があつた。

普通此失敗の原因は牧羊事業の方向を誤つて居ると云はれる、即ち肉毛兩用の羊を飼育すべきに羊毛専用のもを飼育するからだと考へられて居るが、之は原因の一部分に過ぎない、最も大なる原因と見るべきは農耕業務の收入多きが爲、地價の騰貴したるに依るもので、就中メリノス羊を主として飼養する南部露西亞に此狀態あるが故である、同一地積と小麥耕地として用ゆる方が牧羊地として用ゆるよりも、有利なる時は之に轉するのが當然である、従つて小麥耕地としては利用價值少なきも、牧羊地としては支差へなき地に移動する必要がある。

此意味に於て一九一一年—十二年に涉つて、有名なる牧羊事業家チエトベリコフは、本國スタウロポリ縣から八千頭のメリノス羊を西伯利エニセイ縣に移した、西伯利南部地方は牧羊事業には非常に好都合である爲め、同氏のメリノス羊は一九一六年には四萬二千頭に増加した、其後同人の例に倣ひて此種移動をなした牧羊者が多かつた、世界大戰と内亂後の同地方の牧羊事業狀態は精査されて居ないが、將來優良羊毛の一大産地となるであろう。

民間の細毛種羊繁殖地域に關する問題は、戰前程重大性を有して居ないと思考される、戰前の經驗に依ると牧羊事業の永續性は、其土地にて行はるる他の産業と競争し得るならば、充分に保

たるべき事を示して居る、戦前牧羊事業が或る地方に於て不利なりとされたのは、地價の爲め押されたからである、然るに現今は土地の労働使用法が適用され、資本主義から離れて居るから、此戦前の地價に禍される事がない、戦前は牧羊をなすに不適當なる(地價上)地に於て之を行ひたる爲め、損失を來したのであるが、今日では其惧なきわけである、今では各其特長に従つて合理的に土地が用ひられて居る。

上記の如くなるが故に細羊毛の飼育も相當有利となり、其土地の人民も他の業務に従はず専念之に従事する事が出来る、同時に比較的大群の羊を有する事を得べく、工業用に適合する様に羊種を改良する事も容易である、所有数を増加する事、換言すれば羊群数を増す事は組合を基本として行ふのが最も便利である、國營の牧羊事業が發展して細羊毛種の数を増す時は、今日の如く民間のメリノス羊保護の爲めに多額の補助金を交附するの必要が無くなる、小規模の牧羊業にてメリノス羊を飼育する事は、徒らに經費を多く要するのみで効果之に伴はない。

天然羊毛の不足は或る程度迄代用品を以つて補ふる事が出来、之に付ても現に盛に調査研究されて居る。

羊毛に代はる合成纖維(化學的?)を發見する研究は、既に前世紀の八十年代に佛國に於て喧傳された處であるが、其試験は實績を擧ぐる事なく遂に影を没した、歐洲大戰後獨逸人は諸製織工業で使用する諸種の合成纖維に付き熱心に研究を開始した、第一着に此種纖維を製出したのは、甲斐絹糸株式会社及レンドルフの諸工場であつた、一九一九年にはバルブに加工して人工羊毛を製出する事を得た、最初試験したるは人造絹糸の製出であつて、人造絹糸は光澤が本絹糸に比して少なかつた、初めに鹽化物を作用せしめ、次で會達を作用せしめて好結果を收めたが、遂に羊毛類似品の製出に成効し、之を羊毛に混じて衣服用羅紗を作る事を得るに至つた、一九一九年一二年に涉つて佛國の里昂市のジツレ會社はバルブに錯酸を作用せしめ、澱粉液に同じく錯酸を作用せしめて羊毛代用品を得た。

最近の事實としては、人絹より羊毛代用品を得る二實驗が有名である、一は獨逸の化學者シュリケの發見したるラノファイリで、一は伊太利人絹工場スニアウイスコザの發見に係るスニアファイリである。

スニアファイリは一般の注意を喚起し、工場の發表する處に依れば、一日の生産高四千五百キロ

に及び、或種の人絹に遭逢を作用せしめたる後壓力を加ふる時は光澤を失ひ、同時に緊張力を供へ、羊毛類似のものを得る。

同工場で生産して居る繊維は三種に分ち、第一、第二は羅紗の製織に混用され、第三は若干尙光澤を有して天鵞絨(ピロイド)を織るに用ひらる、右三種類共繊維の長は十、十五、二十センチメートル等随意にする事が出来る。

スニアファイリに付ては英國が殊に興味を感じ、ダリングトンに巨大なる工場を設くるに至つた、右は倫敦のホンブロス銀行の出資に係る、米國紐育のブライヤー銀行も金融方を申出でて居る由にて未だ伊太利のシニア、ウイスコス工場との間に條件一致を見ざるも、近く協定さるるものと思はれる。

スニアファイリは容易に染色するが出来る事が出来て、天然羊毛と混用するも之を感知する事が出来ない程である、但し三〇%以上の混用は品質を劣らしむる惧がある。

スニアファイリ及其類似品の製造工場は白耳義、瑞西にもあり、英國の新會社ルールローズ、ホールチングス、アンド、インベントメント會社の如きは、巨費を擁して其製造を計畫して居る。

代用繊維發見の外天然植物繊維より人造羊毛を得んと試験して居る向もある、シワルツ博士のファイラネザの如きは之であつて、綿花の繊維に錯酸を作用せしむるものである、又ネオファイリは綿糸に硫酸を作用せしめて得るもので、尙佛國の一工場にて考案したる新繊維あるも、右は其原料を發表して居ない。

ゲイエ教授は此種植物繊維より高級羊毛模造品を製出せんとして、硫酸を主とし之に幾多の藥品を配合し實驗して居る。

レミランファン及トロマンは麻糸を原料として腐蝕性ナトリウムを作用せしめ、次で硫酸藥品を使用して人造羊毛を得んとして實驗して居る。

蘇聯邦に於ける人造羊毛の製造及其利用は重大なる意義を有するものである、ケナフ即ち殖物性羊毛代用品の一として有名なるものを、毛織物に混用する問題はスローフ教授に依つて提出され研究されて居る。

以上列記したる處を綜合するに三、四年前に世人に喧傳せられたるが如く、羊毛原料の世界市場は危機に類して居るものとは考へる事が出来ない、色々の點を綜合して考察するに、羊毛原料

市場が危機に陥つた場合は、必ず何等か之を解決するモチブの出現を期待し得るもの思ふ、蘇聯邦の状態に付ては國內産細羊毛を以つて全羊毛工業に供給し、外國市場の制肘を脱する施設は目下着々其歩を進めつつありと斷言する事が出来る。

蘇聯邦の羊毛 (下編終)

哈爾濱商品陳列館刊パンフレット目録

號數	書名	備考
一	東三省特別區市内、郷、自治、暫定規則並施行令	(缺)
二	北滿特産と日本特産商の現状	(缺)
三	滿洲里、海拉爾事情	(缺)
四	勞農露西亞の國家制度(上)	(缺)
五	同 (下)	(缺)
六	勞農露國の對外貿易規則集(上)	(缺)
七	北滿洲の工業概観	(缺)
八	勞農露國の對外貿易規則集(下)	(缺)
九	現行勞農商業法規概説	(缺)
一〇	現行勞農企業法規概説	(缺)
一一	西伯利經濟事情(上)	(缺)
一二	同 (下)	(缺)
一三	北滿地方の阿片	(缺)
一四	露國の亞麻と北滿洲の亞麻栽培研究	(缺)
一五	(一)ソウエート、憲法史の梗概 (二)金融上より見たる東鐵附屬地土地建物の權利關係	(缺)
一六	(一)ソウエートの最高裁判 (二)ソウエート機關の概要	(缺)
一七	勞農露國に於ける取引契約	(缺)
一八	(一)村落、郷ソウエート機關の概要 (二)勞農當局の説明せる同國の現状	(缺)
一九	(一)同縣州内國貿易部 關する規定 (二)勞農勞働組合法規 (三)ソウエート内に於て外國人が商業に従事する規定	(缺)
二〇	包裝の研究	(缺)
二一	ウクライナ共和國の概況	(缺)

- 二二 北滿地方の阿片 (下)
- 二三 北滿に於ける露人及外人關係事業 (缺)
- 二四 露領極東大觀(一) (缺)
- 二五 同 (二)
- 二六 入露の指針
- 號外 臺灣の旅
- 二七 (一) 勞農黨國內異種民族共和國の近況
(二) 勞農黨國內及極東購買組合成績
- 二八 露領極東大觀(三)
- 二九 哈爾濱に於ける列國の經濟勢力(上)(缺)
- 三〇 全 (下)(缺)
- 三一 露人の見たる太平洋問題解決の道程(一)(缺)
- 三二 東支沿線指南(上) (缺)
- 三三 勞農黨國々立極東及極東農業銀行定款
- 三四 露人の見たる太平洋問題解決の道程(二)
- 三五 露領極東概観
- 三六 露人の見たる太平洋問題解決の道程(三)
- 三七 東支沿線指南(中) (缺)

- 三八 露人の見たる太平洋問題解決の道程(四)
- 三九 沿海縣事情(上編)
- 四〇 一九二五年—二六年度ソウエート國民經濟豫想
- 四一 大正十四年度勞農黨國
- 四二 沿海縣事情(中編)
- 四三 同 (後編)
- 四四 ソウエート聯邦對外貿易銀行定款
- 四五 極東經濟問題中に現れた東支鐵道(上編)
- 四六 同 (下編)
- 四七 公報より見たるソウエート聯邦經濟狀態
- 四八 ソウエート對外獨占とネーフ
- 四九 計畫的經濟と外國貿易獨占
- 五〇 ソウエート極東の教育
- 五一 ソウエート國營工業
- 五二 (一)ソウエート一九二五年度の經濟政策
(二)ソウエート工業管理に職業全盟參加
- 五三 ソウエート利權政策の新傾向

- 五四 經濟上より見たる勞農黨西亞
- 五五 極東地方金融制度
- 五六 ソウエート聯邦法規概要(上)
- 五七 勞農黨西亞の財産權
- 五八 ソウエート聯邦法規概要(下)
- 五九 ソウエート聯邦に於ける密輸 (缺)
- 六〇 ソウエート聯邦に於ける外國貿易(一)(缺)
- 六一 同 (二)(缺)
- 六二 東支沿線指南 下編(乾)
- 六三 同 (坤)
- 六四 ソウエート聯邦に於ける經濟事情 (缺)
- 六五 ソ連邦と共和國並に共產黨と猶太人(缺)
- 六六 ソウエート文化施設外國人の權利義務私有財産及相続財産
- 六七 西伯利地方極東地方並ヤクートスクプリヤトモゴリ社會主義ソウエート自治共和國
- 六八 ソウエート聯邦利權法(上編)
- 六九 同 (下編)

- 七〇 ソウエート聯邦に於ける輸出貿易の期節性
- 七一 ソウエート極東地方の諸統計
- 七二 洮昂及四洮鐵道案内
- 七三 一九二六年度蘇國の外國貿易と日蘇貿易
- 七四 支那領烏蘇里沿岸事情
- 七五 ヤクーツク共和國(上卷)
- 七六 ヤクーツク共和國(下卷)
- 七七 最近に於ける蘇聯邦の國民經濟一般
- 七九 極東經濟及び文化的施設に對する各委員の報告概要
- 八〇 極東殖民史
- 八一 松花江沿岸事情
- 八二 北滿の移民
- 八三 沿海縣の水田
- 八四 ソウエート共和國土地法典(前編)
- 八五 同 (後編)
- 八六 露支東部國境の密輸事情
- 八七 呼海鐵道並に沿線事情

- 八八 吉拉林及三河地方事情
- 八九 ロシヤ雜觀(上篇)
- 九〇 同 (下篇)
- 九一 松花江の航運
- 九二 極東の水田
- 九三 ソウエート聯邦概覽
- 九四 北滿に於ける輸入商品(その一)
- 九五 蘇聯邦極東産業計畫
- 九六 極東沿海地方の諸企業(上卷)
- 九七 極東沿海地方の諸企業(下卷)
- 九八 北滿に於ける輸入商品(その二)
- 九九 現行外國利權及國民經濟に及ぼす影響
- 一〇〇 旅大並に南滿東支鐵道附屬地とその隣接地帯に於ける支那人の經濟的勢力
- 一〇一 蘇聯邦の課税と反幹部派
- 一〇二 東支鐵道沿線牧畜狀態及同鐵道の對策並に沿海縣北滿の米作
- 一〇三 ソウエート聯邦における原料貯藏高

- 一〇四 吉林省中部各縣事情 (上卷)
- 一〇五 同 (下卷)
- 一〇六 蘇聯邦の大資本施設 (上卷)
- 一〇七 同 (下卷)
- 一〇八 昭和三年哈爾濱市況
- 一〇九 傅家甸に於ける工業
- 一一〇 蘇聯邦の國營保險
- 一一一 北滿に於ける輸入商品(その三)
- 一二二 哈爾濱に於る商工組合其他規定集(上)
- 一二三 蘇聯の失業と其對策
- 一二四 哈爾濱に於る商工組合其他規定集(下)
- 一二五 松花江の航運 附黑龍江航運の使命
- 一二六 極東露領の植民
- 一二七 東支鐵道南部沿線事情
- 一二八 極東露領視察記(一)
- 一二九 同 (二)
- 一二〇 極東露領移民用地の概要
- 一二一 最近の浦蘆新港

- 一二二 東支鐵道西部沿線事情
- 一二三 烏蘇里地方に於ける朝鮮人
- 一二四 東支鐵道問題の真相と其經過(上)
- 一二五 同 (下)
- 一二六 東支鐵道西部沿線事情(下)
- 一二七 傅家甸の商工一覽
- 一二八 ブリヤートモンゴリヤ社會主義ソウエート自治共和國事情 (上)
- 一二九 同 (下)
- 一三〇 最近西伯利産業の發達に就て (上)
- 一三一 同 (下)
- 一三二 昭和四年哈爾濱商況
- 一三三 北滿大豆、豆粕及豆油の輸出組織
- 一三四 西伯利地方の鑛産 (上)
- 一三五 同 (下)
- 一三六 東支鐵道東部沿線事情 (上)
- 一三七 洮昂、四洮及打通鐵道一般經濟事情上
- 一三八 同 (下)

- 一三九 濱海、吉海鐵道沿線事情
- 一四〇 獨逸輸出貿易出張員を顧みて
- 一四一 呼海鐵道と其沿線特産事情
- 一四二 北滿鮮人農村概況
- 一四三 蘇聯邦の内外商業及工業に對する批判 (上)
- 一四四 同 (下)
- 一四五 露西亞共和國コルホズ共同農業に就て
- 一四六 蘇聯邦ソフホズの研究(上)
- 一四七 齊克鐵道及沿線事情 (上)
- 一四八 東支鐵道東部沿線事情 (中)
- 一四九 「ソフホズ」の研究 (下)
- 一五〇 北滿に於ける日本商品の劣勢なるものに關する調査 (上卷)
- 一五一 世界的不況と其極東及滿洲に及ぼしたる反映
- 一五二 北滿に於ける日本商品の劣勢なるものに關する調査 中卷 (缺)

- 一五三 齊克鑛道及沿線事情 (下)
一五四 北滿に於ける日本商品の劣勢なるもの
に關する調査 下卷 (缺)
二五五 蘇聯邦シンジケート組織購買及農業生
産組合
一五六 東支鐵道東部沿線事情 (下)
一五七 昭和五年哈爾濱商況
一五八 蘇聯邦對外貿易の組織及制度
一五九 蘇聯邦の羊毛 (上編)
一六〇 同 (下編)

終